

縞鋼管継手の採用及び現地載荷試験の実施によりコスト縮減

事業名：東京港臨海道路（ 期）事業 東京港臨海大橋（仮称）下部築造工事

概要：橋梁部橋脚基礎において、鋼管矢板井筒工の矢板継手部に縞鋼管継手を採用した。また、現地載荷試験を行い鋼管杭の支持力を確認した。

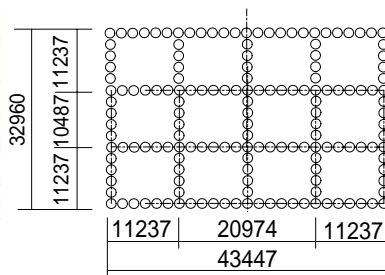
効果：

- ・ 縞鋼板部の内側に縞模様（縞鋼管）を設けることにより継ぎ手部の強度が大幅に増加する。この効果と、実物大の大口徑鋼管杭による現地載荷試験を行い支持力を確認した結果橋梁部橋脚基礎において鋼管杭本数を減らすことが出来た。
- ・ 橋梁基礎における工事費を、**約11,000百万円**から**約7,000百万円**に縮減。
（縮減額 4,000百万円 縮減率約 36%）

(従来)



(素管継ぎ手)



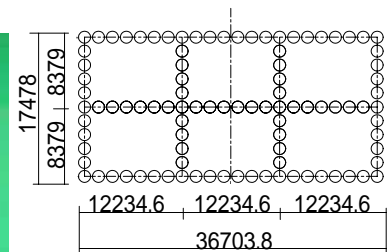
(基礎工平面図)



(新)



(縞鋼管継ぎ手)



(基礎工平面図)